港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324　FAX045-531-9561　　75 号

HP http://kohoku-saibora.jimdo.com　FB 港北区災害ボランティア連絡会　　2019 年 4 月

＊入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

命を守る事を徹底しよう！

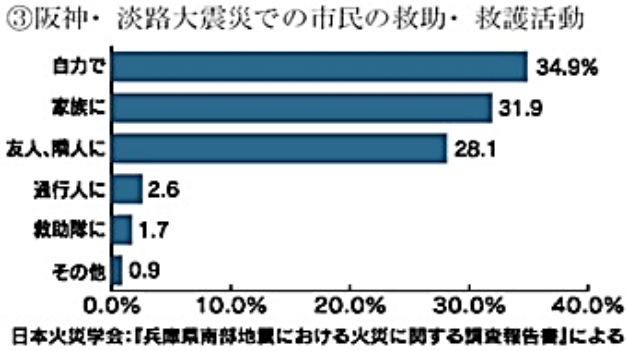
命あってこそボランティア活動ができる
命あってこそボランティアの世話になれる

８年目の３月11日を迎えた東北各地では様々な形で慰霊が行われました。故郷を離れざるをえなかった避難者もまた複雑な気持ちでこの日を迎えたと思います。

次なる大震災は南海トラフ地震でしょうか、首都圏直下地震でしょうか。私たちにいつ起きても大丈夫だとの備えはできているでしょうか。物の備蓄も大切ですが、それらは命あってこそ役立つのだという事を肝に銘じて、死なない、傷つかない備えを高めましょう。

郡山市東山復興住宅にて

阪神淡路大震災からの教訓は



大都市横浜でどのような被害が起き、その後どのようになるかは、やはり阪神淡路大震災から学ぶ事が大切です。神戸市の記録には次のような様子が記述されています。

市民アンケートによると、回答者のうち20.6%が地震後1～2時間に救出・救助活動に携わったと答えている。30～50歳代の男性は、実に3人に1人が救出活動に従事した。神戸市消防局が行った市民行動調査でも、近隣での救出活動を見た人の60.5%が「近所の者」の活躍を目撃している。こうした一般市民の救出活動によって助けられた人々は、数千人にも及ぶのではないかと言われている。

救助活動を妨げた最大の要因は、救助のための資機材が圧倒的に不足していたことだった。消防署には、市民から「スコップを貸してくれ」「バールはないか」との声が殺到した。エンジンカッター、チェーンソー、のこぎり、ハンマーから自動車修理工場のジャッキまで、思いつく限りのあらゆるものが使われた。木造住宅の倒壊現場では、土壁の竹や縄を切るために包丁まで使った。　**出典：『阪神・淡路大震災　被災地“神戸”の記録』（ぎょうせい、1996 年）**

救出活動に必要な人、物を地域内に揃えておく事が必須となります。それを元にした地域訓練なども必要でしょう。そんなアイデアを出せる災ボラでありたいと思います。そのための新年度への振り返りをしっかりとして行きましょう。（宇田川）

発災からどのように
ボラセンを立ち上げるか

例年横浜災害ボランティアネットワーク会議ではコーディネータースキルアップ研修会を開催しています。今年は東日本大震災以降活発に災害ボランティア活動を行い、災害ボラセンの設立運営にも関わってきているピースボートボランティアから、西日本豪雨災害時の活動を元に支援の実情を学びました。また港北の総会でも上映した常総市水害時のボランティアの活動を追ったNHKビデオも、災害時のボランティアの動きが良くわかると参加者には好評でした。ご覧になりたい方はお貸しできますのでご連絡下さい。（宇田川）

３月９日（土）13時から横浜市健康福祉総合センターにて行われた市・区災害ボランティアセンター運営訓練に参加しました。特に印象に残った小林氏のお話をご紹介します。

ピースボートボランティアの活動は国内外の災害救援や防災・減災に関する取り組みであり、その一つとして被災地の災害ボランティアセンターの運営支援をしてきました。小林氏はその経験から「被災地の外の組織は地域内の情報を持っていません。地域の方や行政、社協、外部組織が協働することで大きな力になります」とお話いただきました。また、横浜市内の災害ボランティアに関する取り組みについて、小林氏から「連絡会や研修会などを日ごろから行っているので全国的にも進んでいると思います」と評価していただきました。私も市内各区で行っている現在の活動は非常に重要であると考えています。なぜなら、そのような活動を深化させていくことで、いざという時でも『協働』できる体制がつくれるからです。日ごろから協働というキーワードを意識しながら取り組みたいと気持ちを新たにしました。

港北区社会福祉協議会　遠田哲也

災害ボラセンの立ち上げかたを学ぶ
～Ｄブロック会議～

横浜災害ボランティアネットワーク会議で、市内１８区を４ブロックに分けて、平常は時にはそれぞれの情報交換や学習会を、発災時には相互支援ができるようにとの目的から作られた物です。

Ａブロック＝鶴見、神奈川、西、中、南
Ｂブロック＝戸塚、港南、磯子、金沢、栄
Ｃブロック＝旭、泉、瀬谷、保土ヶ谷
Ｄブロック＝青葉、都筑、緑、港北
となっています。話し合いに参加すると、全く違うアプローチで活動していたり、拠点との関係も様々で、区によっての違いが勉強になります。

今回は災害時にボランティアセンター立ち上げの支援を行う「災害ボランティア支援活動プロジェクト会議」（通称支援Ｐ）での講師の活動を通して、災害時に外部支援者とどのように共同行動を取れば良いかを学ぶ物でした。社協の災ボラ担当の石河さんのレポートです。（宇田川）

講演の前半に、日野さんが神戸の方と協働して作成した阪神淡路大震災の動画が流れました。そこには、瓦礫だらけの町、掲示板に

貼られている紙を見て大切な人の安否確認をしている様子などが映っていました。当時、私はまだ生まれておらず、このようにまとまった被害映像を見るのは初めてで衝撃的なものでした。また、内閣府「防災白書」によると阪神淡路大震災で救助された人の約９８パーセントは、家族や近所の人の手によるものであり、消防署や自衛隊によって救助された人は1.7パーセントであったという記載がありました。隣近所で助け合う共助がこれだけ大きなものであったことに驚きました。

後半では運営支援者としての力（コミュニケーション力、対人関係力、気力、体力、見通す力、好奇心、理解・判断力）が、どれくらいあるのかがわかる自己判断シートを記入しました。隣の方とも比べてみましたが、私の不得意であるものが相手の人にとって得意なことであったり、その逆もあり全く違う結果で興味深かったです。また、自身の振り返りにもなりました。

日野さんが、災害ボランティアセンターで活動されたお話しを写真を交えながらたくさん聞くことができました。そのため災害ボランティアセンターのボランティアコーディネートについて深く学ぶことができました。濃くて、あっという間の研修会でした。

港北区社会福祉協議会　　石河　沙也佳

日吉地区社協　福祉実践活動発表会

日吉地区は区内でも熱心に防災活動に取り組んでいる地区ですが、港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン」の一環として「防災から福祉を考える」をテーマにした活動報告会が開かれました。

１月２７日㈰慶応義塾大学日吉キャンパス協生館（内藤原洋ホール）で開催されました。日吉地区の皆さんは町内会の広報や呼びかけで、５００席が満席になるほどの参加に地域の皆さんの意識の高さを感じ、羨ましくも思いました。

まず発表前に日吉台西中・演劇部の皆さんによる「平家物語」をテーマとした演劇と昨年流行した「ＵＳＡ」ダンスパフォーマンスも披露されました。会場は中学生のパフォーマンスに引き寄せられ、空気は和みました。

（演劇部は昨年中学校創作劇発表会で最優秀賞を受賞）

活動発表は地区ごとのテーマで行なわれました。日吉地区「安全な道とＡＥＤについて」日吉宮前地区「水害に対しての一時避難場所」日吉町地区「防災マップの作成について」箕輪地区「急斜面の防災と非難」下田地区「防災から福祉を考える」このテーマは住まいの地域性から発生したテーマです。さまざまな内容ですが、「防災から福祉を考える」との共通テーマで行なった「町あるき」と年に６回以上の実行委員会を経て2020年までに完成を目指す「防災マップ」の進歩状況の報告発表会です。

内容はＡＥＤがある場所はマップなどで調べれば表示されていますが、「鍵がかかっていて中に入れない」「担当者がいない時には使用不可の所も」「ＡＥＤの老朽化」「こんなに多くのコンビニがあるのにコンビニにはＡＥＤが１台もなかった」そうです。水害に対しての一時避難場所に高層マンションを考えてマンションへの話合いを試みたものの許可を得る難しさがあり、なかなか進展はなかったとのことです。防災マップに関しては最初、要援護者支援の取組みの情報を積み重ね、手作りで作成していましたが、少しずつデータ

一化を始めているそうです。この点はとても興味をそそられました。(複製承認申請書必須)

このあと「防災町あるきフォーラム」がパネルディスカッション形式で行われました。パネラーは５名の発表者、コーディネーターは吉田洋子さん(吉田洋子まちづくり計画室)。

「この町あるきの成果を防災に生かしていきたい」「問題点が解決したわけではないので引き続き町あるきを続けたい」など心強い意見が述べられていました。また、ボランティア活動の募集や災害時の連絡手段については、ＳＮＳやインターネットの活用については言及されず、電話や公共の場所などに設置している掲示板を利用するとの発言に留まりました。

このように、地域の皆さんの熱心な発表に加え中学生のパフォーマンスで地域が一体になっている様子から有事の際には皆さんの共助が期待されると思いました。(付岡)

アイデアレシピ募集

２月の災害食イベントは参加者から好評を頂きました。生き延びた後の、温かく美味しい食事は貴重です。そこで皆さんからのアイデア募集です。食材は「乾パン」昔に比べるとずいぶんと改良され、食べやすくはなってはいますが、乾パンだけをぽりぽり食べるのは難しい人もいます。そんな乾パンを美味しく食べるレシピを考えて下さい。乾パンが無い方は社協３階の災ボラロッカー内に置いてありますので､必要数持って行って結構です。紙上で紹介して行きます。(編集スタッフ)

新しいビブス

災害時のボランティアセンターには非常に大勢の人が出入りします。センタースタッフも初顔合わせとなる事がざらに有ります。その際誰がボランセンのスタッフなのかがはっきりと分かる事はとても大切です。外部支援者はそれぞれの団体のビブス等を持参する場合も有りますが、センタースタッフとして活動して頂く場合はセンターのビブスを着用して頂く方が好ましいのです。そこで 2018 年度予算で購入しました。このビブスの出番が無いことを祈りたいですが、災ボラの訓練では今後これを使用したいと思います。(宇田川)

編集後記

☆東日本大震災では未だに仮設住宅住まいの方がまだいらっしゃったり、福島の原発避難者の家賃補助が打ち切られたりとまだまだ難問が続いています。忘れない事を続けて行きたいです。(宇田川)

☆災害を見るたびに、普通の毎日の生活がとても大切に思います。幸いに私はまだ被災したことがありません。(付岡)

☆最近、職場で知らない方が結構いることに気づきましたが、防災ヘルメットには耐用年数があります。材質によりますが、2年～5年です。(室伏)

☆三陸鉄道が、旧 JR 山田線区間を含めて、全線が開通しました。鉄道の有無で復興のスピードが、大きく変わります。良かったです。(中島)